

第72回火山噴火予知連絡会

幹事会議事録

日 時：平成8年5月29日（月） 12時00分～13時00分

場 所：気象庁 第2会議室（5階）

出席者：井田、岡田、浜口、藤井（敏）、渡辺、藤井（直）、石原、加藤（国土庁：代理）、三宅（文部省：代理）、澤田

事務局：三上、斉藤

1. 委員の異動、臨時委員の報告

- ・測地学審議会地震火山部会長の交代に伴い、茂木（日大）委員から平澤（東北大）委員に交代した。関係機関で異動に伴い、海上保安庁：久保委員から西田委員に、防災科技研：熊谷委員から岡田委員に、気象庁では鈴置委員が山本委員に、手塚委員から栗原委員に交代した。臨時委員として、荒牧先生（日大）、須藤先生（京大）、江原先生（九大）、中田先生（震研）、清水先生（九大）、をお願いした。

2. 北海道駒ヶ岳の火山活動に関する報告

- ・3月12日に拡大幹事会を札幌で開催し、幹事会見解を発表したことの報告。活動についてはその後落ち着いている。

3. 伊豆東部の地震・火山活動に関する報告

- ・両予知連の連携強化を2月の地震予知連に向け回答し、地震予知連で了解を得られた。本日噴火予知連絡会で了解されれば両予知連が合意したとし、議事録に掲載する。

4. 火山噴火の長期的な予測に関するワーキンググループの各サブグループの検討結果の報告

- ・活火山サブグループ：羅臼岳、燧ヶ岳、海勢場（北福德堆）について検討され、追加認定すべきであるとの結論に達した。また、その他にもいくつか活火山として検討すべき火山があるが、今後さらに検討を行うべきとの結論に達した。
- ・火山情報サブグループ：雲仙岳及びアメリカの事例報告等がなされた。
- ・長期予測サブグループ：階段ダイヤグラムの揃っている火山を調査することとした。火山噴火の前兆現象があったかの調査も必要との議論がなされた。基礎的なデータを集め具体的な作業に入ることとした。

5. 文部省から、地震観測データの一元性に関し、今後のデータ活用等について見解が示された。また、火山噴火予知計画のレビューに関して説明があった。

6. その他

- ・全国で発生する群発地震が火山活動に関係している可能性があるが、地震予知連や地震調査委員会で検討され、それをどう評価するかは噴火予知連としても重要である。次回以降検討を進めたい。
- ・連絡会で報告・検討された各火山の活動概要をまとめて記者会見であるいは自治体に公表することとしたい。
- ・気象庁地震火山部に地震情報企画官が、札幌・仙台・福岡各管区気象台に地震情報官が配置され、仙台・大阪管区気象台および沖縄気象台に地震火山課が発足した。